

幼児教育の今後

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定
こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領の改訂と
その背景

無藤 隆(白梅学園大学)

●中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申） 平成28年12月21日

○ 幼児教育で育みたい資質・能力として、「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の三つを、現行の幼稚園教育要領等の5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）を踏まえて、遊びを通しての総合的な指導により一体的に育む。

幼児教育で育みたい資質・能力

○ 5歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿（「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」）を明確にし、幼児教育の学びの成果が小学校と共有されるよう工夫・改善を行う。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

○ 自己制御や自尊心などのいわゆる非認知的能力の育成など、現代的な課題を踏まえた教育内容の見直しを図るとともに、預かり保育や子育ての支援を充実する。

非認知的能力、社会に開かれた教育課程

○ 幼稚園教育要領の改訂内容を踏まえ、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂内容について整合性が図られるとともに、幼稚園と小学校の接続と同様に、保育所及び幼保連携型認定こども園についても小学校との円滑な接続を一層推進されることが望まれる。

要領・指針の整合性、幼小接続の重視

○ 幼稚園のみならず、保育所、認定こども園を含めた全ての施設全体の質の向上を図っていくことが必要となっている。

施設全体の質の向上

● 幼児教育・非認知的能力への関心の高まり

アメリカ ペリー就学前計画の概要

【実施期間】 1962～67年

【対象】 低所得層アフリカ系アメリカ人3～4歳児／教育上「高リスク」児・123名

【内容】 学校教育／家庭訪問／親教育

【教育期間】 2年間

【追跡調査】 3～11歳, 14, 15, 19, 27, 40歳

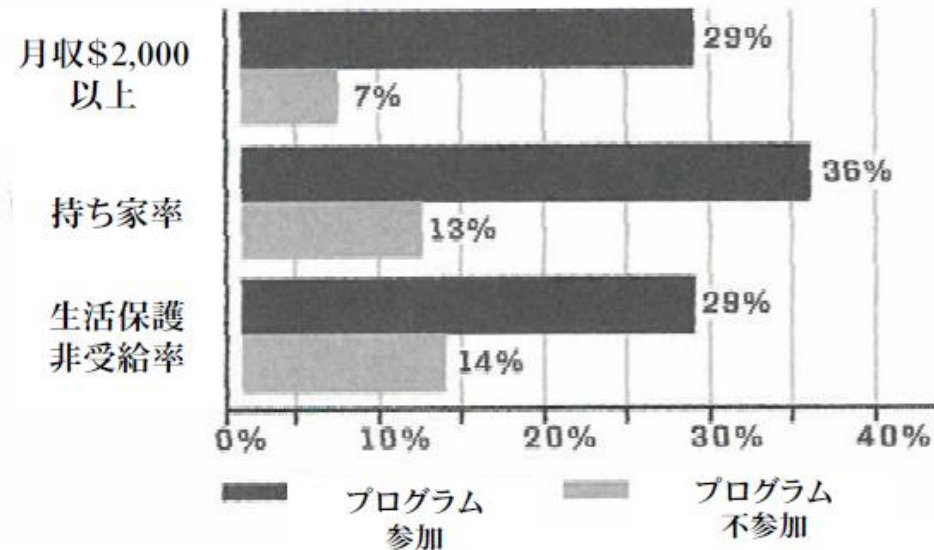
**実験群（平日2.5時間の子どもへの教育,
週末1.5時間の家庭訪問で家庭への教育）**

アメリカ ペリー就学前計画の結果

J.Heckman -Science(2006) ; (2013)

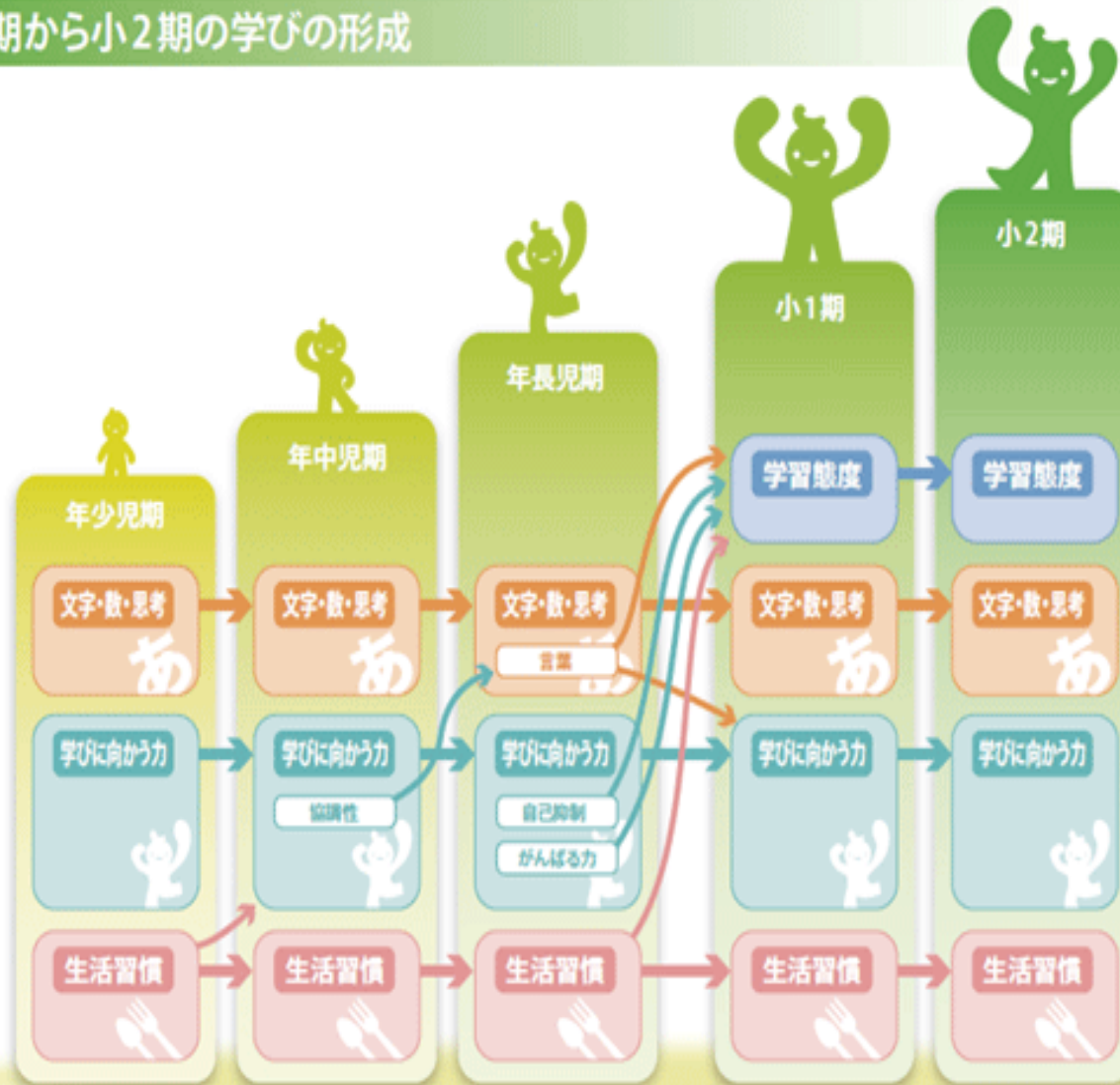
- 就学前教育への参加は、将来の所得向上や生活保護受給率の低下につながる。
- 就学前教育は、認知的能力（IQ）というよりも、非認知的能力（動機づけ、粘り強さ、自制心等）を高めることで長期的効果を持った可能性を示唆。

【経済的効果（40歳時点）】



●「幼児期から小学生の家庭教育調査」(同一の子供について5年間(年少児～小学2年生)の変化を捉える追跡調査・第4弾プレリリース)(ベネッセ教育総合研究所, 2017)

幼児期から小2期の学びの形成



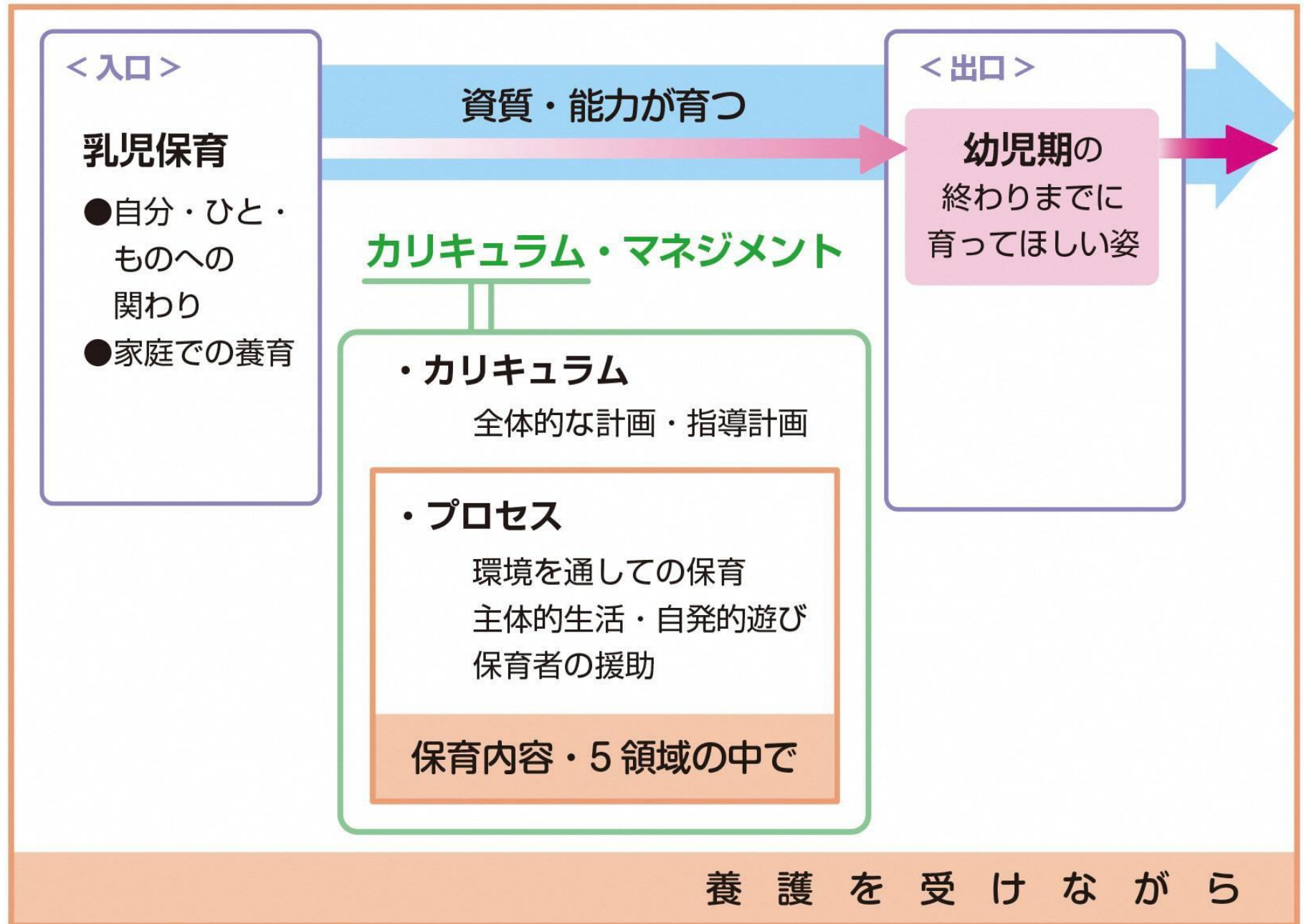
年少) 生活習慣
→年中) 学びに向かう力

年中) 協調性
→年長) 言葉

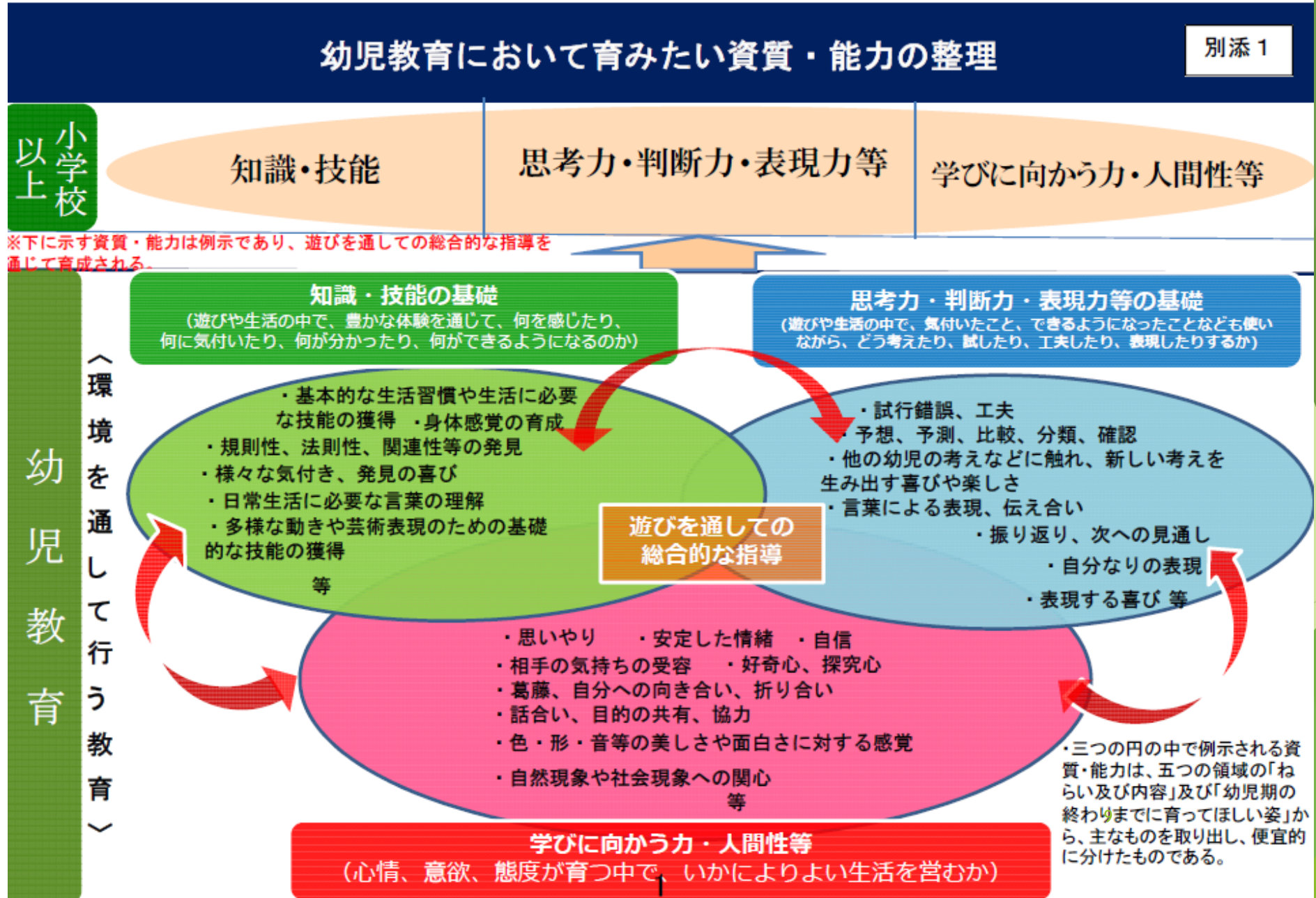
年長) 言葉, 自己抑制, がんばる力, 生活習慣
→小1) 学習態度

年長) 言葉
→小1) 学びに向かう力

幼児教育の構造

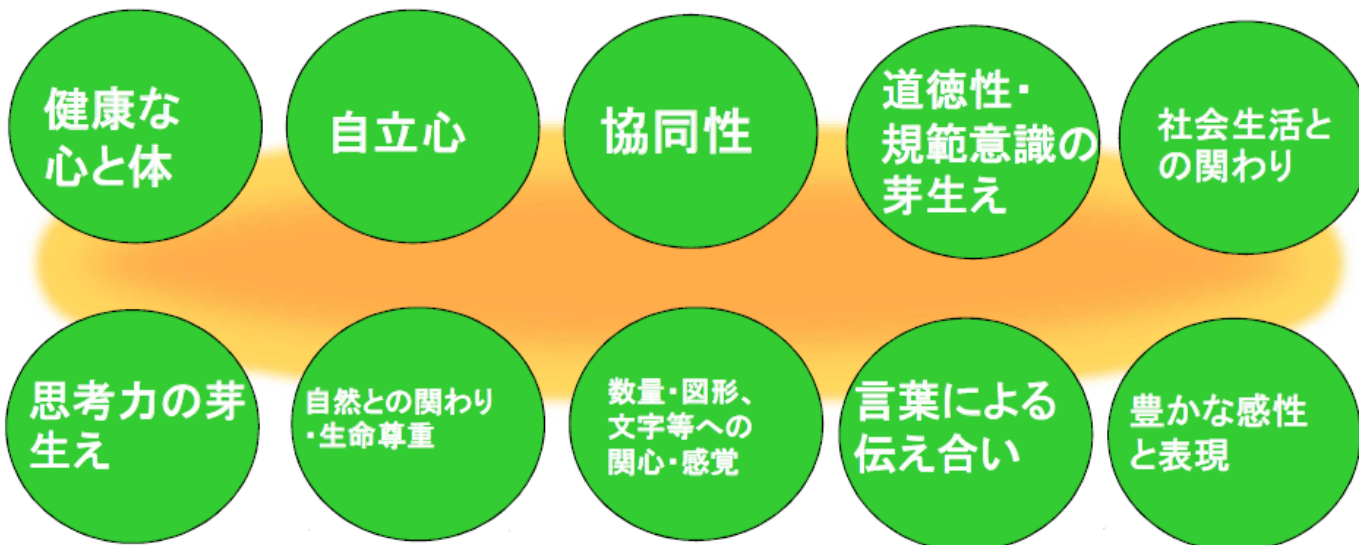


●中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）補足資料 平成28年12月21日



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(要領)

- 5領域の内容等を踏まえ、特に5歳児の後半にねらいを達成するために、教師が指導し幼児が身に付けていくことが望まれるものを抽出し、**具体的な姿**として整理したものであり、それぞれの項目が個別に取り出されて指導されるものではない。
- 3歳児、4歳児においても、これを念頭に置きながら5領域にわたって指導が行われることが望まれる。3歳児、4歳児それぞれの時期にふさわしい指導の積み重ねが、この「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」につながっていくことに留意する。
- 5歳児後半の評価の手立てともなるものであり、幼稚園等と小学校の教員が持つ5歳児修了時の姿が共有化されることにより、**幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化**が図られることが期待できる。



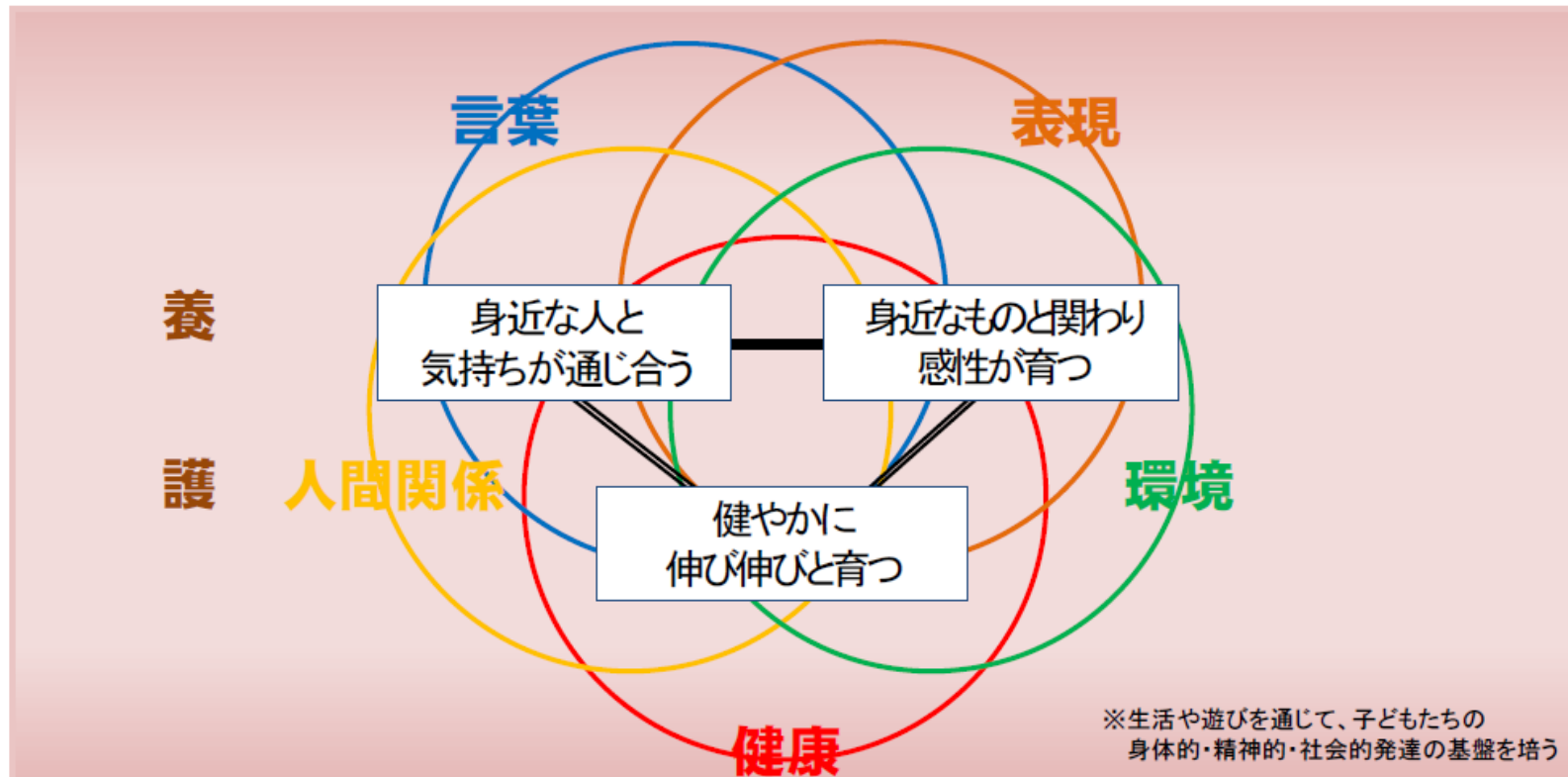
中央教育審議会

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）

平成28年12月21日

● 保育専門委員会における「保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ」 平成28年12月21日

0歳児の保育内容の記載のイメージ



○乳児保育については、生活や遊びが充実することを通して、子どもたちの身体的・精神的・社会的発達の基盤を培うという基本的な考え方を踏まえ、乳児を主体に、「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」「健やかに伸び伸びと育つ」という視点から、保育の内容等を記載。保育現場で取り組みやすいものとなるよう整理・充実。

○「身近な人と気持ちが通じ合う」という視点からは、主に現行指針の「言葉」「人間関係」の領域で示している保育内容との連続性を意識しながら、保育のねらい・内容等について整理・記載。乳児からの働きかけを周囲の大人が受容し、応答的に関与する環境の重要性を踏まえ記載。

○「身近なものに関わり感性が育つ」という視点からは、主に現行指針の「表現」「環境」の領域で示している保育内容との連続性を意識しながら、保育のねらい・内容等について整理・記載。乳児が好奇心を持つような環境構成を意識して記載。

小学校
中学年

教科等の特質に応じた「見方・考え方」や資質・能力を育むとともに、教科横断的にそれらを総合・統合していく学び

小学校
低学年

生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、総合的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期

接続

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりとしながら、幼児の得意なところや更に伸ばしたいところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、より自主的・協同的な活動を促したりするなど、意図的・計画的な環境の構成に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方・考え方」や資質・能力を育む時期

幼児教育

遊びや生活の中で、幼児期の特性に応じた「見方・考え方」や資質・能力を育む学び

<未就園段階： 家庭や地域での生活>



※各教科等の「見方・考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の濃淡は、小学校教育との関連が分かるように示したものであり、基本的にはすべての教科に関わっているが、濃い部分は特に意識的につながりを考えていくことが求められるもの。幼児教育において小学校教育を前倒しで行うことを意図したものではない。

幼児教育－質の時代へ（1）

1. 幼稚園、保育所、認定こども園の幼児教育としての共通化。
2. 学校教育の土台としての位置づけ。
3. "教育及び保育"の考え方。
4. 支援体制の確立。
 - ・市町村担当者の専門化。
 - ・幼児教育センター、アドバイザー。
5. 研修体制の確立。
 - ・キャリア別研修。
 - ・義務づけ、報償との連動。

幼児教育の質の時代へ（２）

6. 養成課程の質保証。

- ・再課程申請。
- ・教員の実践化、実践研究化。

7. 無償化、法令化、処遇改善、第三者評価。

8. 資格の高度化。

- ・保育士の高度資格。
- ・修士修了者の位置づけ。
- ・実践的研究者の育成。

9. 情報の交換と普及の仕組みの構築。

10. 研究拠点の構築とエビデンスの積み上げ。